

Receiver for Android 3.6について




Nov 20, 2015

Important

このバージョンのCitrix Receiverは、Android M (6.0) サポートしていません。Android Mにアップグレードした場合、Citrix Receiverを最新のバージョンにアップグレードしてください。最新のバージョンは、[Google play](#)からダウンロードできます。

このリリースでは、以下の機能が追加されました。

- **マルチタッチモード**。構成可能なオプションにより、マルチタッチジェスチャーを有効にしてタッチ対応のデスクトップまたはアプリケーションに直接送信できます。セッション内のメニューを使ってマルチタッチモードを有効にできます。ユーザーは、マルチタッチモード、パンモード、スクロールモードを切り替えることができます。
注：マルチタッチモードはXenApp 7.0以降、XenDesktop 7.0以降を必要とし、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、およびWindows 2012 R2でサポートされます。サーバーがマルチタッチをサポートしていない場合は、スクロールモード、パンモードを使用できます。

スクロールモードを有効にする	マルチタッチモードを有効にする	パンモードを有効にする
		

- **グラフィックパフォーマンス**。互換性のあるデバイスのハードウェアデコードとOpenGLレンダリングおよび適切なセッション解像度を有効にすることで、Receiver for Androidのフレーム率およびデコード率はおおよそ2倍になっています。
- **外部キーボードおよびマウスのサポート**。デバイスに外部キーボードやマウスをつないだ場合、ソフトキーボードのポップアップや右クリックの禁止といったReceiver for Androidの設定をそのまま適用できます。
- **SSL v3の使用の無効化**。SSLv3プロトコルに対する"POODLE"などの新たな攻撃を防ぐため、このバージョンのReceiver for AndroidはSSLv3プロトコルの使用が無効になっています。詳しくは、[CTX 200238](#)を参照してください。
注：TLS 1.0を有効にする必要があります。
- **Android 2.3.3 (Gingerbread) のサポートの取り止め**。このバージョンのReceiver for AndroidはAndroid 5.0 (Lollipop) を含むAndroid 4.0以降をサポートします。
- **簡素なセッションローミング**。ユーザーがReceiverにログオンすると、1つのデバイスで最大1つのセッションをローカルデバイスにローミングされます。(Webのインターフェイスを介して) Receiver for Webを使う場合には、セッションはローミングされません。
- **マウスの中央ボタンを使った動作が一定していません**。このリリースでは2つボタンマウスおよび2つボタンとスクロールイールがあるマウスをサポートしています。[#499353]
- **Receiver for Androidの予測入力がオフに設定されていて、ジェスチャー入力 (文字をスライドさせての入力) を使用している場合、次の単語の入力が始まるまでは入力した単語が画面に表示されません**。このため、単語と単語の間にスペースが入らなくなります。回避策としては、Receiver for Androidの予測入力設定を有効にすることです。[#502503]
- **Open GLモードで実行している場合、Automatic Client Reconnection (ACR) ダイアログが表示されずにセッションが停止します**。ログには、「ACR is disabled by ReceiverViewActivity (OpenGL mode)」と表示されます。[#506483]
- **Receiver for Androidでアプリを起動しようとする**と、一般的なエラーメッセージである「一般的な問題。再接続してください」

- い。」が表示されます。これはデバイスに信頼済みのルート証明書がないためです。[#506936]
- マウスがない特定の装着構成ではReceiver for Androidを起動できません。これは、Samsung S4をSamsungマルチメディアドックに装着した場合に見られます。構成にマウスを追加すると、Receiver for Androidが起動し、問題なく動作します。回避策としては、この構成で装着する場合にはマウスを追加します。[#512406]
 - デコードおよびレンダリングモードのOpenGLでMediaCodecのXenDesktop 7.0サーバーに接続すると、Receiver for Androidが動作を停止します。デフォルトでこのモードを使用しているデバイスの例としては、Samsung Galaxy Note 10.1 2014エディションがあります。この問題を回避するには、XenDesktop 7.0サーバーで無損失文字列のH.264を使用しないように構成します。詳しくは、XenDesktop 7.0のドキュメントの「グラフィックおよびマルチメディアの配信を最適化する」を参照してください。[#516465]
 - 将来の更新では、Receiver for Androidの [設定] タブからShareFileにアクセスできなくなります。AndroidデバイスのShareFileアプリを使用してください。
 - Android Version 4.1.1が動作するASUS Nexus 7デバイスでは、アカウントの作成に失敗します。この問題を回避するには、Androidオペレーティングシステムを最新バージョン (Version 4.2.2など) にアップデートしてください。
 - 一部のAndroidデバイスで、Bluetooth接続のマウスの右クリックにより [戻る] 処理が実行され、[終了] ダイアログボックスが開くことがあります。この問題は、マウスの右クリックをサポートしないファームウェアが動作するデバイスで発生します。[#331168]
 - Receiver for Android 3.5では、スマートカード認証を使用するとフルVPNトンネル機能はサポートされません。[#456657]
 - "denyssslreneg"ポリシーをNoに設定して、またはFrontend Clientおよび"Client Authentication"をOptionalに設定してFIPS NetScalerに接続する場合、Receiverにログインすると次のエラーが発生することがあります。
 - ユーザー名フィールドに「ドメイン\ユーザー名」形式で入力してReceiverにログインする場合、ユーザー名またはパスワードを間違えて入力すると「ドメイン\ドメイン\ユーザー名」形式での入力を確認するメッセージが表示されることがあります。この問題を解決するには、ドメイン名エントリを1つ削除して、「ドメイン\ユーザー名」形式でログインし直してください。[#466022]
 - Androidではスムーズローミングまたはワークスペースコントロールはサポートされていません。機能する可能性はありますが、信頼性はありません。[#68728673]
-
- Windows 7では、マルチタッチジェスチャがサポートされません。
 - キーボードが表示されている状態のタブレットからアプリケーションまたはデスクトップにアクセスする場合、タブレットを90度回転させてからキーボードの選択を解除しても、全画面表示にならないことがあります。キーボードの選択解除に全画面表示に戻らない場合は、タブレットを90度回転させると全画面表示に戻ります。[#457589]
 - Receiverは、Nexus 10デバイスではBluetoothマウスをサポートしません。[#368795]
 - StoreFrontアカウントを手動で追加する場合、正常にアカウントを追加するには完全なストアアドレスが必要です。[#455441]
 - default.icaファイルのWFClientおよびApplicationセクションでProxyType=Noneと設定しても有効になりません。[#495211]
 - Receiver for Android 3.5を実行中のデバイスの回転が早いと、セッションの画面は回転しないままとなります。[#495212]
 - Receiver for Android 3.5の [パスワード] フィールドはSamsung Galaxy Note 10.1ではポップアップ表示されません。[#495336]
 - Access Gatewayサイトを追加した後でReceiver for Androidに新しいアカウントを追加するとエラーが発生します。[#504846]
 - スマート入力機能を有効にすると、入力内容はGalaxy Note 10.1では "-" と表示されます。[#507650]
 - 新しいART (Android RunTime) でもAndroid LプレビューイメージでもCitrix Receiver for Androidは正常に動作しません。[#489152]
 - 一部のデバイスでは、アプリケーションを [よく使う項目] に追加するとArithmetic Exceptionが発生します。[#493904]

Receiver for Androidに必要なシステム

Nov 20, 2015

Important

このバージョンのCitrix Receiverは、Android M (6.0) サポートしていません。Android Mにアップグレードした場合、Citrix Receiverを最新のバージョンにアップグレードしてください。最新のバージョンは、[Google play](#)からダウンロードできます。

- Citrix Receiver for Android 3.6は、Androidのバージョン4.0および5.0をサポートします。
- Citrix Receiver for AndroidはCitrix Receiver for Webからのセッションの開始をサポートし、Webブラウザを使ってCitrix Receiver for Webを実行できるようになります。セッションが開始しない場合、Receiver for Androidを介して直接アカウントを構成してください。
- Citrix ReceiverのTechnology Preview版がインストールされている場合は、これをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールします。

重要：接続を保護する場合については、下記の「[接続](#)」を参照してください。

Citrix Receiverで仮想デスクトップやアプリケーションに接続する場合、Citrix StoreFront、およびWeb Interfaceがサポートされます。

StoreFront :

- StoreFront 2.6 (推奨)
StoreFrontストアへの直接アクセスを提供します。Receiverでは、前バージョンのStoreFrontもサポートされます。
- Receiver for Webサイトが構成されたStoreFront
StoreFrontストアへのWebブラウザからのアクセスを提供します。この展開方法での制限事項については、StoreFrontのドキュメントを参照してください。

Web Interface (XenDesktop 7環境ではサポートされません) :

- Web Interface 5.4とWeb Interfaceサイト。
- Web Interface 5.4とXenApp Servicesサイト。
- NetScaler上のWeb Interface
NetScalerで提供されるリライトポリシーを有効にする必要があります。
- XenAppおよびXenDesktopの以下のバージョン：
 - XenApp 7.x
 - XenApp 6.5 for Windows Server 2008 R2
 - XenApp 6 for Windows Server 2008 R2
 - XenApp Fundamentals 6.0 for Windows Server 2008 R2
 - XenApp 5 for Windows Server 2008
 - XenApp 5 for Windows Server 2003
 - Citrix Presentation Server 4.5
 - XenDesktop 7.x
 - XenDesktop 7

- XenDesktop 5、5.5、および5.6

Citrix Receiverでは、以下の設定のいずれかを使用して、XenAppサーバーファームにHTTP、HTTPS、およびICA-over-TLS接続を確立できます。

LAN接続の場合：

- StoreFront 2.xまたは2.6（推奨）、Web Interface 5.4、またはXenApp Servicesサイト（旧称「Program Neighborhood エージェントサイト」）

安全なリモート接続の場合（次のいずれかのバージョン）

- Citrix NetScaler Gateway 10（VPX、MPX、およびSDXバージョンを含む）
- Citrix Access Gateway Enterprise Edition 9.x、10.x（VPX、MPX、およびSDXバージョンを含む）
- CloudGatewayはバージョン9.3以降でのみサポートされます

セキュリティが保護された接続とTLS証明書について

TLSを使用してリモート接続を保護する場合、モバイルデバイスはリモートゲートウェイのTLS証明書の信頼性を、信頼されたルート証明機関のローカルストアと照合することで検証します。証明機関のルート証明書がローカルのキーストアに存在する場合は、民間の証明機関（VeriSignおよびThawteなど）が発行した証明書が自動的に検出されます。

プライベート（自己署名）証明書

リモートゲートウェイにプライベート証明書がインストールされている場合は、組織の証明機関のルート証明書をモバイルデバイスにインストールしないと、Citrix ReceiverでCitrixリソースにアクセスできません。

注：接続時にリモートゲートウェイの証明書を検証できない場合（ローカルのキーストアにルート証明書が含まれていないため）、信頼されていない証明書の警告が表示されます。ユーザーが警告に対してそのまま続行することを選択した場合は、アプリケーションの一覧が表示されますがアプリケーションが起動しません。

Androidデバイスへのルート証明書のインポート

Android 4.xデバイスでは、デバイスのルートアクセスがなくてもルート証明書をインポートできます。Android 4.0以前のデバイスでは、ルート証明書の自動インポートはサポートされていません。

ワイルドカード証明書

ワイルドカード証明書は、同一ドメイン内の任意のサーバーで個別のサーバー証明書の代わりに使用します。Citrix Receiver for Androidでは、ワイルドカード証明書がサポートされています。

中間証明書とAccess Gateway

証明書チェーンに中間証明書が含まれる場合は、中間証明書をAccess Gatewayのサーバー証明書に追加する必要があります。使用するAccess Gatewayのエディションに関するKnowledge Baseアートを参照してください。

[CTX114146 : How to Install an Intermediate Certificate on Access Gateway Enterprise Edition](#)

eDocsのこのセクションの設定のトピックに加えて、次のトピックも参照してください。

[CTX124937 : How to Configure Citrix Access Gateway Enterprise Edition for Use with Citrix Receiver for Mobile Devices](#)

注：RSA SecurID認証は、Secure Gatewayを使用する構成ではサポートされません。RSA SecurIDを使用するにはAccess Gatewayを使用してください。

Citrix Receiverでは、使用するAccess Gatewayのエディションに応じて以下の認証がサポートされます。

- 認証なし（StandardおよびEnterprise Editionのみ）
- ドメイン認証
- RSA SecurID（WiFi接続および非WiFi接続でのソフトウェアトークンを含む）
- RSA SecurIDを組み合わせたドメイン認証
- SMSパスコード（OTP）認証
- スマートカード認証*

Receiver for Androidは次の製品および構成をサポートするようになりました。

注：Web Interfaceサイトでは、スマートカードによる認証がサポートされていません。

サポートされるスマートカードリーダー：

- BaiMobile 3000MP Bluetoothスマートカードリーダー

サポートされるスマートカード：

- PIVカード
- Common Access Card

サポートされる構成：

- StoreFront 2.xおよびXenDesktop 5.6以降またはXenApp 6.5以降があるNetScaler Gatewayに対するスマートカード認証
- Web Interface 5.4.2およびXenDesktop 5.6以降またはXenApp 6.5以降があるNetScaler Gatewayに対するスマートカード認証

注：RADIUSを使用してほかのトークンベースの認証ソリューションを設定できる場合があります。SafeWordトークン認証について詳しくは、eDocsで適切なAccess Gatewayエディションの「SafeWord認証の構成」に関するトピックを参照してください。

管理

Nov 20, 2015

Receiverを使用するには、環境でWeb Interfaceを構成する必要があります。Web Interfaceでは、XenApp Servicesサイト（旧称「Program Neighborhoodエージェントサービスサイト」）とXenApp Webサイトという2種類のWebサイトを作成できます。これらのWeb Interfaceサイトにより、ユーザーデバイスがサーバーファームに接続できるようになります。ReceiverとWeb Interfaceサイト間の認証は、このセクションで説明されているいくつかの方法で処理されます。

また、StoreFrontがReceiverへの認証およびリソース配信を提供するように構成して、デスクトップ、アプリケーション、およびその他のリソースをユーザーに配信する一拠点のエンタープライズリソースストアを作成することもできます。

接続の構成については、<http://community.citrix.com>を参照してください。ビデオ、ブログ、サポートフォーラムなどを利用できます。

Citrix Receiver for Androidのための環境の構成

Nov 20, 2015

XenAppまたはXenDesktopの環境で公開されているアプリケーションにアクセスする前に、ここで説明する手順に従って次のコンポーネントを設定します。

- アプリケーションを公開するときは、StoreFrontのストアを経由してアプリケーションにアクセスするユーザーのエクスペリエンスを向上させるために、次のオプションについて検討します。
 - 公開アプリケーションを簡単に識別できるように、わかりやすい説明を入力します。この説明は、ユーザーのCitrix Receiverに表示されます。
 - 管理者は、Citrix Receiverの [おすすめ] の一覧にアプリケーションを表示して、モバイルデバイスユーザー用の公開アプリケーションを強調できます。Citrix Receiverの [おすすめ] の一覧にアプリケーションを追加するには、サーバー上でその公開アプリケーションのプロパティを編集し、[説明] ボックスに文字列「KEYWORDS:Featured」を追加します。
 - アプリケーションの表示サイズをモバイルデバイスの画面サイズに合わせる機能を有効にするには、XenAppサーバー上でその公開アプリケーションのプロパティを編集し、[説明] ボックスに文字列「KEYWORDS:mobile」を追加します。このキーワードの追加により、そのアプリケーションでの自動スクロール機能も有効になります。
 - アプリケーションがストアのユーザー全員に自動的にサブスクライブされるようにするには、XenAppでそのアプリケーションを公開するときに、説明にKEYWORDS:Auto という文字列を追加します。ユーザーがストアにログオンすると、そのアプリケーションを手動でサブスクライブしなくても自動的にプロビジョニングされます。
 - リモートデスクトップ (RDP) アプリケーションを公開する場合、Androidデバイス上でShiftキーが正しく動作するようにするには、アプリケーションの [説明] ボックスの値に文字列「keyword:unikey」を追加します。このキーワードにより、Receiverでのキーストローク送信メカニズムが変更され、CapsLockキーが正しく動作するようになります。詳しくは、[StoreFront](#)のドキュメントを参照してください。
- XenApp/XenDesktop展開環境のWeb Interfaceで、XenApp WebサイトまたはXenApp Servicesサイトを作成します。サイトの作成方法について詳しくは、[Web Interface 5.4](#)の「サイトの構成」に関するトピックを参照してください。

SDカードへのReceiverのインストール

Nov 20, 2015

Receiver for Mobile Devicesは、ユーザーデバイスへのローカルインストール用に最適化されています。ただし、デバイス上のストレージ領域が不足している場合は、外部SDカード上にReceiverをインストールできます。この場合、そのSDカードをモバイルデバイスにマウントして、公開アプリケーションを起動します。この機能はデフォルトでサポートされており、追加構成は不要です。

SDカードを使用してアプリを起動するには、ユーザーデバイスでReceiverアプリ一覧から起動するアプリを選択して、[SDカードへ移動] を選択します。

外部SDカード上にReceiverをインストールしてアプリを起動する場合、以下の問題が生じることがあります。

- モバイルデバイス上にSDカードをマウントした状態でUSBストレージデバイスをマウントすると、SDカードを使用できなくなります。このため、実行中のアプリが停止します。
- SDカードからアプリを実行している間、一部のApp Widget（ホーム画面のウィジェットなど）を使用できなくなります。ユーザーは、SDカードのマウントを解除した後で、App Widgetを再起動する必要があります。

ユーザーがReceiverをローカルにインストールした場合、必要に応じてReceiverをSDカード上に移動することができます。

StoreFrontをCitrix Receiver for Android用に構成するには

Nov 20, 2015

重要：

- Receiver for Android 3.xでStoreFrontストアにアクセスする場合は、Citrix Access Gateway Enterprise Edition 9.3およびAccess Gateway 10がサポートされます。
- Receiver for AndroidはReceiver for Webからのセッションの開始をサポートし、Webブラウザを使ってReceiver for Webを実行できるようになります。セッションが開始しない場合、Receiver for Androidを介して直接アカウントを構成してください。

StoreFrontで作成するストアは、Citrix Receiverのリソース配信インフラストラクチャと認証を提供するサービスにより構成されます。このストアにより、XenDesktopサイトおよびXenAppファームからデスクトップとアプリケーションが列挙および集約され、これらのリソースをユーザーが使用できるようになります。

1. StoreFrontをインストールして構成します。詳しくは、eDocsの「[StoreFront](#)」（「テクノロジー」>「StoreFront」）のトピックを参照してください。独自のReceiver for Androidダウンロードサイトを作成する管理者用に、テンプレートが提供されています。
2. XenAppやXenDesktopのアプリケーションと同様の手順で、StoreFront用にストアを構成します。ユーザーのモバイルデバイス側で特別な構成を行う必要はありません。詳しくは、eDocsの「StoreFront」のセクションで、「[ユーザーアクセスオプション](#)」を参照してください。以下のいずれかの方法を使用します。
 - プロビジョニングファイル。管理者は、ストアに接続するための詳細が定義されたプロビジョニングファイル（CRファイル）をユーザーに提供します。デバイスにCitrix Receiverをインストールした後で、提供されたCRファイルをユーザーが開くとReceiverが自動的に構成されます。Receiver for Webサイトのデフォルトでは、そのサイトの単一ストア用のプロビジョニングファイルがユーザーに提供されます。または、管理者がCitrix StoreFront管理コンソールで単一または複数のストア用のプロビジョニングファイルを生成して、それらをユーザーにメールなどで配布することもできます。
 - ユーザーによる構成。デスクトップやアプリケーションにアクセスするには、Access GatewayまたはストアURLが必要であることをユーザーに直接知らせることができます。Access Gatewayを経由する接続の場合、ユーザーは製品のエディションと必要な認証方法についても把握する必要があります。インストール後、Citrix Receiverにこれらの詳細を入力し、接続が検証され手これに成功したら、ログオンを求められます。

Access Gatewayを構成するには

外部から接続するユーザー（遠隔地からインターネット経由で接続するユーザーなど）をにアクセスを提供するには、Access Gatewayを使用した認証を構成します。

- Receiver for Android 3.xでStoreFrontストアにアクセスする場合は、Citrix Access Gateway 9.3 Enterprise EditionおよびAccess Gateway 10がサポートされます。
- 詳しくは、使用するバージョンの[Access Gateway](#)に関するeDocsトピックを参照してください。

1. 新しいアカウントを作成するには、[Address (アドレス)] ボックスに、ストアのURLをstorefront.organization.comのように入力します。
2. そのほかの必要な情報を入力し、セキュリティトークンを有効にしたり認証の種類を選択したりするなど、Access

Gatewayの認証方法を選択して設定を保存します。

Access Gateway Enterprise EditionをCitrix Receiver for Android用に構成するには

Nov 20, 2015

重要：

- Receiver for AndroidでXenApp Servicesサイトを使用する場合は、Access Gateway Enterprise Edition 9.xおよび10.xがサポートされます。
- Receiver for AndroidでXenApp Webサイトを使用する場合は、Access Gateway Enterprise Edition 9.xおよび10.xがサポートされます。
- Receiver for Webは、Receiver for Androidではサポートされません。
- Receiver for AndroidでStoreFrontストアにアクセスする場合は、Access Gateway Enterprise Edition 9.xおよび10.xがサポートされます。
- Web InterfaceサイトおよびStoreFrontでは、1要素認証および2要素認証がサポートされます。
- デバイ스에組み込まれているすべてのWebブラウザでサポートされている、Web Interface 5.4を使用する必要があります。
- 単一の仮想サーバー上で複数のセッションポリシーを作成して、接続の種類（ICA、CVPN、またはVPN）やReceiverの種類（Web ReceiverまたはローカルインストールのReceiver）に応じて異なる設定を適用できます。すべてのポリシーを単一の仮想サーバーで作成できます。
- ユーザーがReceiver上でアカウントを作成するときに、アカウントの資格情報としてメールアドレスまたはAccess GatewayサーバーのFQDNを入力する必要があります。たとえば、デフォルトのパスで接続できない場合、ユーザーはAccess Gatewayサーバーのフルパスを入力する必要があります。

リモートのユーザーがAccess Gatewayを介してCloudGateway環境に接続できるようにするには、CloudGatewayのコンポーネントであるAppControllerまたはStoreFrontと通信するようにAccess Gatewayを構成します。このアクセスを有効にする方法は、CloudGatewayのエディションによって異なります。

- CloudGateway Enterpriseエディションでは、Access GatewayとAppControllerを統合することでリモートユーザーのAppControllerへの接続を有効にします。ユーザーは、AppControllerに接続してWebアプリケーション、SaaS（Software as a Service）アプリケーション、およびモバイルアプリケーションを取得したり、ShareFileで共有されているドキュメントにアクセスしたりします。ユーザーは、Citrix ReceiverまたはAccess Gateway Plug-inを使用して接続を行います。
- CloudGateway Expressエディションでは、Access GatewayとStoreFrontを統合することで内部ユーザーやリモートユーザーのStoreFrontへの接続を有効にします。ユーザーは、StoreFrontに接続してXenAppの公開アプリケーションやXenDesktopの仮想デスクトップにアクセスします。ユーザーは、Citrix Receiverを使用して接続を行います。

接続の構成方法については、eDocsの「[Integrating Access Gateway with CloudGateway](#)」の各トピックを参照してください。

Receiver for Mobile Devicesでの設定については、以下のトピックを参照してください。

- [Creating the Session Profile for Receiver for CloudGateway Enterprise](#)
- [Creating the Session Profile for Receiver for CloudGateway Express](#)
- [Configuring Custom Clientless Access Policies for Receiver](#)
- [Allowing Access from Mobile Devices](#)
- [App Preparation Tool for Mobile Apps](#)

リモートのユーザーがAccess Gatewayを介してWeb Interface環境に接続できるようにするには、Web Interfaceと通信するようにAccess Gatewayを構成します。詳しくは、Citrix eDocsの「[Configuring Access Gateway Enterprise Edition to](#)

[Communicate with the Web Interface](#)」の各トピックを参照してください。

Web InterfaceをCitrix Receiver for Android用に構成するには

Nov 20, 2015

Citrix Receiverでは、既存のWeb Interfaceサイトを使用してアプリケーションを起動できます。管理者は、ほかのXenAppアプリケーションと同じ方法でWeb Interfaceサイトを設定できます。ユーザーのモバイルデバイス側で特別な構成を行う必要はありません。

Receiverは、Web Interface Versions 5.4のみをサポートします。Web Interface 5.4を使用する場合、ユーザーはモバイル版のFirefoxからアプリケーションを起動できます。

デバイスから、通常のアカウント情報を入力してWeb Interfaceサイトにログインします。

Receiver for Androidを使用しているときにWeb Interfaceサイトからアプリケーションを起動する場合、デバイス上のSDカードが使用可能である必要があります。SDカードが使用不能である場合（ほかで使用されていたりマウントされていない）か、セッションの起動に失敗します。

スマートカードサポートの有効化

Nov 20, 2015

Receiver for Androidでは、Bluetoothで接続したスマートカードリーダーを使用してPNAサイトにアクセスできます。スマートカードのサポートを有効にすると、以下の機能が有効になります。

- スマートカードによるログオン認証。Receiverのユーザーをスマートカードを使って認証します。
- スマートカード対応アプリケーションのサポート。スマートカード対応の公開アプリケーションを使って、ローカルのスマートカードリーダーにアクセスできます。
- ドキュメントおよび電子メールへの署名ICAセッション内で起動するMicrosoft WordやOutlookなどのアプリケーションからスマートカードにアクセスして、ドキュメントやメールにデジタル署名を追加できます。

サポートされているスマートカード：

- PIVカード
- Common Access Card

デバイス上でスマートカードサポートを有効にするには

1. ユーザーは、モバイルデバイスでスマートカードリーダーを使用できるように構成する必要があります。構成方法については、スマートカードリーダーのドキュメントを参照してください。たとえば、baiMobile Bluetooth Smart Card Reader 製品をAndroidデバイスで使用できるようにする方法については、<http://www.biometricassociates.com/downloads/user-guides/baiMobile-3000MP-User-Guide-for-Android-v2.0.pdf>を参照してください。

Androidデバイスでのスマートカードのサポートでは、以下の要件および制限事項があります。

- Receiverでスマートカードを使用する場合、Biometric Associates社でサポートされるすべてのAndroidデバイスがReceiverでもサポートされます。詳しくは、<http://www.biometricassociates.com/products/smart-card-readers/android-supported-devices/>を参照してください。
 - スマートカードを使用する場合、グローバルPINを使用することはできません。PIV PINを入力してください。これはサードパーティの制限事項によるものです。
 - スマートカードでの認証にパスワード認証よりも時間がかかることがあります。このため、セッションから切断した後再接続する場合は、切断後約30秒待機してください。セッションからの切断直後に再接続を試行すると、Receiverが動作しなくなることがあります。
 - WebブラウザやXenAppサイトを使用したアクセスでスマートカード認証はサポートされません。
2. スマートカードを使用するPNAgentアカウントを追加する前に、AndroidデバイスにAndroid PC/SC-Liteサービスをインストールします。このサービスは、baiMobile SDKにAPK (.apk) ファイルとして付属しています。Androidの場合、PC/SC-Liteの.apkファイルを次の場所からダウンロードできます。

- Google Play Store

3. Receiverの [設定] アイコンをタップして、[アカウント]、[アカウントの追加] の順に選択するか、既存のアカウントを編集します。
4. 接続を構成し、スマートカードのオプションを有効にします。

RSA SecurID認証のAndroidデバイス用の設定

Nov 20, 2015

Access GatewayのRSA SecurID認証を設定すると、Receiverで「次のトークン」モードがサポートされます。このモードを有効にすると、ユーザーが不正なパスワードを3回（デフォルト設定）入力したときに、Access Gateway Plug-inによりメッセージが表示され、次のトークンが表示されるまで待機すればログオンできるようになります。ユーザーが不正なパスワードで何度もログオンしようとした場合に、そのユーザーのアカウントが無効になるようにRSAサーバーを設定できます。

RSA SecurID認証の構成手順については、Citrix eDocsで、対応する[Access Gateway](#)バージョンの
— [RSA SecurID認証の構成](#)
に関するトピックを参照してください。

RSA SecurID認証は、Secure Gatewayを使用する構成ではサポートされません。RSA SecurIDを使用するにはAccess Gatewayを使用してください。

RSA SecurID Software Authenticatorファイルの拡張子は、「.sdtid」です。このファイルを、RSA社の変換ツール（RSA SecurID Software Token Converter）を使用してXML形式の81桁の数値に変換します。RSA SecurID Software Token Converterのダウンロードおよび使用方法については、RSA社のWebサイトを参照してください。

以下の手順でトークンファイルを変換します。

1. モバイルデバイスではなくコンピューターを使用して、<http://www.rsa.com/node.aspx?id=2521>からRSA SecurID Software Token Converterをダウンロードします。Webサイトおよび変換ツールに付属のReadmeの説明に従って、トークンファイルを数値に変換します。
2. 変換された数値をメールにコピーして、ユーザーのモバイルデバイスに送信します。
3. デバイスの日時設定が正確であることを確認してください。この設定が正確でないと、認証が行われません。
4. デバイスでメールを開き、ソフトウェアトークンをインポートするためのリンクをクリックします。

デバイスにソフトウェアトークンをインストールすると、[設定] にトークンを管理するためのオプションが追加されます。

注：SDTID (.sdtid) ファイルをReceiverに関連付けられないモバイルデバイスでは、拡張子を.xmlに変更してからインポートしてください。

Androidユーザーへのアクセス情報の提供

Nov 20, 2015

管理者は、ユーザーにReceiverアカウントの情報を提供します。ユーザーは、この情報を使用してアプリケーション、デスクトップ、およびデータにアクセスします。次の方法でユーザーに情報を提供できます。

- メールアドレスによるアカウント検出を構成する
- ユーザーにプロビジョニングファイルを提供する
- アカウント情報をユーザーに手入力させる

管理者は、メールアドレスによるReceiverアカウントの検出機能を構成できます。この機能を有効にした場合、ユーザーはReceiverの初期設定時にサーバーのURLの代わりに自分のメールアドレスを入力できます。DNS (Domain Name System) サービス (SRV) レコードにより、そのメールアドレスに関連付けられているAccess GatewayまたはStoreFrontサーバーが自動的に検出され、ホストされているアプリケーション、デスクトップ、およびデータにアクセスするためのログオンを求めメッセージが表示されます。

注：ReceiverでWeb Interfaceに接続する環境では、メールアドレスによるアカウント検出がサポートされません。メールアドレスによるReceiverアカウントの検出機能が正しく動作するようにDNSサーバーを構成する方法については、StoreFrontドキュメントの「[メールによるアカウント検出を構成する](#)」を参照してください。

ユーザーが入力したメールアドレスによりStoreFrontまたはAccess GatewayのURLが正しく検出され、Access Gatewayに接続できるように構成する方法については、Access Gatewayドキュメントの「[Connecting to StoreFront by Using Email-Based Discovery](#)」を参照してください。

管理者は、StoreFrontを使用して、接続の詳細情報を定義したプロビジョニングファイルを作成できます。作成したプロビジョニングファイルをユーザーに提供して、Receiverを自動的に構成できるようにします。デバイスにReceiverをインストールした後で、提供されたCRファイルをユーザーが開くとReceiverが自動的に構成されます。Receiver for Webサイトを構成する場合は、そのサイトからユーザーにReceiverのプロビジョニングファイルを提供することもできます。

詳しくは、[StoreFront](#)のドキュメントを参照してください。

ユーザーにアカウント情報を入力させる場合は、以下の情報を提供する必要があります。

- StoreFront URLまたはXenApp Servicesサイトホスティングリソース。例：servername.company.com。
- Access Gatewayを使用する場合は、そのアドレスと認証方法。
Access GatewayまたはSecure Gatewayの構成について詳しくは、「[Access Gateway](#)」または「[XenApp \(Secure Gatewayの場合\)](#)」のドキュメントを参照してください。

ユーザーが新しいアカウントの詳細を入力すると、Receiverにより接続が検証されます。検証に成功すると、そのアカウントにログオンするための画面が開きます。

パスワードの保存

Nov 20, 2015

Citrix Web Interface管理コンソールでは、認証時にユーザーがパスワードを保存することを許可できます。管理者がユーザーのアカウントを設定すると、パスワードが暗号化され、そのユーザーの初回接続時まで保存されます。

- ユーザーによるパスワードの保存を許可すると、パスワードがデバイス上に格納され、アプリケーションへの再接続時にパスワードの再入力が不要になります。

注：パスワードが保存されるのは、ユーザーがアカウントを作成するときにパスワードを入力した場合のみです。アカウントのパスワードが入力されていない場合は、サーバー側の設定にかかわらずパスワードは保存されません。

- 管理者がパスワードの保存を無効（デフォルト設定）にすると、接続時に常にパスワードの入力が必要になります。

注：StoreFront接続では、パスワードを保存することはできません。

サーバー側でパスワードの保存を有効にしても、ユーザーは以下の方法でパスワードの入力が毎回要求されるように設定できます。

- アカウント作成時に、パスワードフィールドを空白のままにする。
- アカウント編集時に、パスワードを削除して設定を保存する。

Citrix Receiver設定の変更

Nov 20, 2015

Citrix Receiver for Androidの [設定] タブで、次の設定をカスタマイズできます。

- **表示**
 - セッションの解像度：セッションの解像度を選択します。デフォルトは [画面に合わせる] です。
- **キーボード**
 - 予測入力：文字列の予測入力を有効または無効にします。デフォルトは [Off] です。
 - 拡張キーボード：拡張キーボードを有効または無効にします。デフォルトは [Off] です。
 - 拡張キー：AltやCtrlなど、特殊キーを拡張キーボードの一部として表示するように指定します。
 - クライアント側IME：クライアント側IMEが有効な場合、ユーザーが入力する文字列は、別ウィンドウではなく入力ポイントに直接入力されます。デフォルトは、 [Off] です。
- **オーディオ**
 - オーディオストリーム：セッション内でのオーディオ設定を [オーディオ:オフ]、 [再生]、 [再生と録音] のいずれかとして構成します。デフォルトは [再生] です。
- **上級**
 - デバイスストレージの使用：デバイスストレージへのアクセスを許可します。デフォルトは、 [アクセスなし] です。
 - 終了する前に確認：終了する前の確認について構成します。デフォルトは [On] です。
 - クリップボード：クリップボードの使用を有効または無効にします。デフォルトは、 [Off] です。
 - 画面の向き：表示の向きを [横]、 [縦]、または [自動] (動的) に構成します。デフォルトは [自動] です。
 - 画面の常時表示：デバイスの表示をオンのままにします。デフォルトは、 [Off] です。
- **ShareFile**：この機能のサポートはなくなっていて、将来の更新から削除されます。ShareFileアプリを使用してください。
- **バージョン情報**：Citrix Receiverのバージョンおよび著作権情報です。

デモ用のサイトを試用する

Nov 20, 2015

Citrix Receiverを初めて起動すると、[ようこそ] ページが開き、Citrix Cloudのデモ用アカウントを作成するためのオプションが表示されます。このアカウントを使用して、Citrix Cloudを試用できます。

デモ用アカウントを作成するには、ユーザーが名前およびメールアドレスを入力して登録操作を行う必要があります（一部デバイスではメールアドレスが自動的に入力されます）。Citrix Cloudのデモサイトにはいくつかの構成済み公開アプリケーションが用意されており、Citrix Receiverですぐにそれらのアプリケーションを使用できます。

ユーザーは、Receiverを使用してアカウントを追加、変更、および削除できます。